

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 4 月 16 日現在

機関番号：34416

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2009～2011

課題番号：21520172

研究課題名（和文）

耳鳥齋と江戸時代の戯画－漫画・アニメーションの源流

研究課題名（英文）Nichosai and Caricature in the Edo Period - The Origin of Manga and Animation-

研究代表者

中谷 伸生（NAKATANI NOBUO）

関西大学・文学部・教授

研究者番号：90247891

研究成果の概要（和文）：本研究は、江戸時代の戯画作者である耳鳥齋の代表作《別世界巻》、《地獄図巻》、そして《仮名手本忠臣蔵》などの肉筆作品に、『絵本水や空』、『画話耳鳥齋』などの版を加え、その画業の全貌を明らかにした。加えて、与謝蕪村らによる人物戯画、さらには漫画の元祖とでも言うべき鳥羽絵本をも加えて、大坂の戯画の系譜を鮮明にした。滑稽な世相を鋭く抉り出して、風雅の領域にまで昇華させた数多くの作品が、笑いの町大坂の原点であることを明らかにした。これこそ近代漫画（岡本一平など）、そして現代のアニメーションの源流というべきである。

研究成果の概要（英文）：In this study, I introduce the full range of the artist's output with Nichosai's painted works, such as the representative works "Another World Scroll", "Hell Scroll", and "Revenge of the 47 Ronin", and the books which include his illustrations such as "Collection of Kabuki Actors" and "Eccentrics in Osaka and Kyoto". I have also attempted to shed some light on the Osaka giga tradition by including caricatures by Yosa Buson and others, and Toba-e books, which can be seen as the forerunners of manga. Through these numerous works, featuring sharply observed comical scenes and situation that are so refined as to be sublime, I discover the origins of Osaka, the city of laughter. This is origin of modern manga (Okamoto Ippei etc.) and contemporary animation.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	2,700,000	810,000	3,510,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：芸術学・芸術学・芸術史・芸術一般

キーワード：耳鳥齋、戯画、江戸時代、マンガ、アニメーション

1. 研究開始当初の背景

江戸時代における戯画の研究・紹介は、これまでさまざまに為されてきたが、最も重要な戯画作者である大坂の耳鳥齋については、長らく忘れられたままである。この

忘れられた戯画作者の耳鳥齋が制作した戯画の発掘と、その戯画が近代（現代）のマンガ・アニメーションとどのように繋がっているか、を解明することが、現在、世界的に評価の高い日本のマンガ・アニメー

ションの位置づけを確立する研究となる。近代（現代）の日本のマンガ・アニメーションは、明治以降に突如として誕生したのではなく、やはりその成立の背景には江戸時代の戯画制作の感性や風土が控えていたものと推測される。要するに、江戸時代の戯画と近代（現代）のマンガ・アニメーションは、具体的にどのように関係があるのかは、まことに興味深い問題だといえるであろう。本研究は、日本美術史・日本戯画史研究の大きな空白部分を明らかにするために挑戦した研究課題であり、きわめて独創的な研究だと自負している。

2. 研究の目的

近代（現代）のマンガ・アニメーションの源流に、江戸時代の戯画、とりわけ大坂の耳鳥齋や鳥羽絵が位置づけられるかどうか、を解明することを目的とした。両者には連続（継承）する部分と、非連続（継承していない）の部分とが認められるが、いずれにしても、近代（現代）のマンガ・アニメーションの源流を明らかにすることは、きわめて重要な研究目的であった。その際、「源流」という概念が、具体的にいかなる内容を示しているのかを研究目的にした。

3. 研究の方法

(1) 埋もれている耳鳥齋の戯画を、大阪・京都を中心に調査を進め、新作品や新資料を発掘して本邦初のデータ化を行った。

(2) 大阪と京都を中心にした調査であったが、東京や福岡、広島、愛知など、全国各地を調査して廻り、データ化を進めた。

(3) データ化に際しては、耳鳥齋の真贋の判定が必須であるが、真贋については、別立ての論文を執筆した。また、その内容を単著にまとめて出版した。

(4) 近代マンガの中から岡本一平や宮武外骨のマンガを調査して、両者の繋がりを明らかにした。その際、耳鳥齋の版本『絵本水や空』の復刻を行った近代漫画家の代表者の岡本一平を中心に調査を進めた。

(5) 近代のマンガや現代のアニメーションの主たるものを調査研究し、江戸時代の戯画との比較研究の基盤を作った。

(6) 各種の学会発表や論文の公表によって、広く社会に成果を問うた。

4. 研究成果

(1) 耳鳥齋の戯画について、未紹介の戯画を中心に、多くを調査発掘し、平成 21 年（2010 年）3 月に、単著『大坂画壇はなぜ忘れられたのかー岡倉天心から東アジア美術史の構想へー』（醍醐書房・総 616 頁）を出版して、その中に、大部の耳鳥齋

研究を含めた。これはこれまで為されなかった耳鳥齋研究を始めて本格的に世に出した論考および資料集で、耳鳥齋と大坂の戯画についての今後の研究の基礎となる独創的な内容であるとともに、近代（現代）のマンガ・アニメーションの源流についての示唆的な研究・資料である。

(2) こうした耳鳥齋の調査研究を各種の学会発表や学術雑誌などで紹介し、広く社会に情報を提供した。たとえば、顛川美術館公開講座において、「兼葭堂と大坂の画家たち」と題する講演を行い、兼葭堂周辺の耳鳥齋の事績に言及し、その位置づけを解説した。また、大和文華館で開催された絵入本学会の「絵入本ワークショップⅣ」において、「耳鳥齋の版本と肉筆画」と題して研究発表を行った。さらに、美術学術雑誌『美術フォーラム 21』24 号におけるマンガ特集「漫画とマンガ、そして芸術」で、資料紹介「耳鳥齋『画本古鳥図賀比』（上中下巻）一冊」という研究発表を行った。加えて、関西大学博物館紀要において、耳鳥齋筆《祇園一力康楽之図》を資料紹介し、それらが与謝蕪村らの戯画と関連することを明らかにした。加えて、「大坂画壇の定義とその問題点」、『関西大学文学論集』第 60 巻第 4 号において、耳鳥齋を柱にする大坂画壇の定義を明確にする主張を展開し、耳鳥齋と大坂画壇の新たな展望を解説した。

(3) 中でも、贋作が多い耳鳥齋の作品群を、徹底的に調査研究し、真贋の判定を公開して、今後の研究者に役立つようにした。とりわけ、単著『大坂画壇はなぜ忘れられたのかー岡倉天心から東アジア美術史の構想へー』（醍醐書房・2010 年）において、初めての耳鳥齋印譜集成を作成し、収録した。この印譜集成は、日本の戯画史研究において、画期的な成果であると自負している。

(4) 江戸時代の戯画と近代（現代）のマンガ・アニメーションとの関わりに対する関心は、近年、日本のみならず、欧米や中国・韓国・東南アジア諸国でも高まりつつある。なぜ、日本社会は優れたマンガ・アニメーションを生み出したのか、という問いであるが、それが日本のマンガ・アニメーションの源流を解明する研究の重要な課題であった。その意味では、本研究が、耳鳥齋と江戸時代の戯画と、近代（現代）のマンガ・アニメーションの繋がりの一端を明らかにしたことは、国内外にインパクトのある情報を伝えたことになる。

(5) 耳鳥齋に特化して行った本研究の成果は、すなわち、現代日本のマンガ・アニメーションの成立について示唆に富む成果を上げたわけで、このことは、近代（現

代)のマンガ・アニメーションの特質についても独創的な成果をあげたことになる。

(6) 耳鳥齋の戯画の版本『絵本水や空』を復刻出版した岡本一平など、近代(現代)の漫画家たちが、耳鳥齋や江戸時代の戯画から継承したものとは何か、という問題は重要であり、その一端を解明したことは意義深い。本研究の独創性がここにある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 12 件)

①中谷伸生「近世近代の日本絵画における美術交渉」、『東西学術研究所紀要』、東西学術研究所、査読無し、45 輯、2012 年 3 月 31 日、1-20 頁。

②中谷伸生「京の狩野派と袁派」、『東アジア文化交渉研究』、東アジア文化研究科、査読無し、開設記念号、2012 年 3 月 31 日、35-50 頁。

③中谷伸生「伝狩野永岳《楼閣山水図》」、『関西大学博物館紀要』、関西大学博物館、査読無し、第 18 号、2012 年 3 月 31 日、79-90 頁。

④中谷伸生「近代挿絵画家の特質とその分類」、『文化遺産としての大衆的イメージ』、科研費・基盤研究(B)(代表者・金田千秋)、査読無し、2012 年 3 月 31 日、299-304 頁。

⑤中谷伸生「耳鳥齋『画本古鳥図賀比』(上中下巻)一冊(資料紹介)、『美術フォーラム 21』24 号、査読有り、2011 年 11 月 31 日、150 頁および 162 頁

⑥中谷伸生「近世絵画史における浜田杏堂—大坂文人画の評価をめぐって—」、『東西学術研究所創立六十周年記念論文集』、関西大学東西学術研究所、査読無し、2011 年 10 月 11 日、105~124 頁。

⑦中谷伸生「大坂画壇の定義とその問題点」、『関西大学文学論集』、査読無し、関西大学文学部、第 60 巻第 4 号、2011 年 3 月 31 日、1-19 頁。

⑧中谷伸生「浜田杏堂《掌中延寿》」、『関西大学博物館紀要』、関西大学博物館、査読無し、第 16 号、2011 年 3 月 31 日、68-77 頁。

⑨中谷伸生「耳鳥齋筆《大石氏祇園一力康楽之図》(関西大学図書館蔵)」、『関西大学博物館紀要』、査読無し、第 15 号、2010 年 3 月 31 日、46-50 頁。

⑩中谷伸生「日本近世近代絵画史研究の方法と東アジア」、『アジア文化交流研究』、東アジア文化研究科、査読無し、第 5 号、2010 年 2 月 31 日、449-460 頁。

⑪中谷伸生「初期是真の傑作《郭子儀図》(大雄院障壁画)」、『別冊太陽(柴田是真)』、査読無し、2009 年 12 月、92-119 頁。

⑫中谷伸生「浮田一蕙『長篠合戦図』—建仁寺久昌院客殿障壁画—」、『京都奥平家菩提寺久昌院の長篠合戦障壁画』、設楽原歴史資料館、査読無し、2009 年 10 月、13-35 頁。

[学会発表] (計 15 件)

①中谷伸生「英日における近世絵画コレクションとアーカイブズ化」、関西大学 CSAC II 研究例会、2012 年 1 月 28 日、関西大学以文館

②中谷伸生「久昌院障壁画の研究」、東西学術研究所研究例会、2011 年 6 月 15 日、関西大学児島惟謙館

③中谷伸生「大坂画壇から東アジア美術史の構想へ」、渋沢栄一記念財団寄附講座、2011 年 1 月 6 日、関西大学千里ホール

④中谷伸生「耳鳥齋の版本と肉筆画」、絵入本ワークショップIV(絵入本学会)、2010 年 12 月 4 日、大和文華館

⑤中谷伸生「大坂画壇はなぜ忘れられたのか」、大阪近代美術研究会、2010 年 11 月 6 日、関西大学文学部第一学舎

⑥中谷伸生「近世なにわの奇才! 木村兼葭堂を取り巻く文人画家たち」、大阪市立図書館講演会、2010 年 9 月 4 日、大阪市立図書館

講堂

⑦中谷伸生「近代挿絵画家の分類試論」、大正イマジュリイ学会、2010年7月31日、同志社大学

⑧中谷伸生「大正の『小美術品店』」（司会及び注釈）大正イマジュリイ学会第7回全国大会、2010年3月7日、藤井達吉現代美術館

⑨中谷伸生「文化交流研究から文化交渉研究へー美術史学をてがかりにー」（基調講演）アジア文化交流研究センター第15回研究集会、2010年3月6日、関西大学以文館

⑩中谷伸生「浮田一蕙『長篠合戦図』障壁画について」長篠合戦顕彰会研究例会、2009年11月14日、設楽原歴史資料館

⑪中谷伸生「日本近世近代絵画史研究の方法と東アジア」、国際シンポジウム「東アジア文化交流ー学術論争の止揚をめざして」、2009年9月19日、中国杭州・浙江工商大学

⑫中谷伸生「岡倉天心と日本美術史」、アジア文化交流研究センター研究集会、CSAC、2009年7月3日、関西大学以文館

⑬中谷伸生「兼葭堂と大坂の画家たち」顛川美術館美術公開講座、2009年6月21日、顛川美術館

⑭中谷伸生「近代大坂の絵画と東アジアー菅楯彦と矢野橋村」、CSAC第5回国際シンポジウム「東アジアにおける文化情報の発信と受容」、2009年6月1日、関西大学

⑮中谷伸生「美術に見る親密なるものの表象コメント」、第62回美術史学会全国大会シンポジウム、2009年5月23日、京都大学

〔図書〕（計7件）

①中谷伸生ほか（共著）、『顔をみること』（共著・蜷川順子ほか編）、関西大学出版部、2012年2月28日、161-182頁

②中谷伸生（内田慶市との編共著）、『東アジ

アの言語・文化・芸術』、関西大学文学部、2011年9月30日、315-344頁

③中谷伸生（内田慶市との編共著）、『東アジアの言語・文化・芸術』、丸善出版、2011年11月31日、315-344頁

④中谷伸生（共著・王勇編）、『東亜文化的伝承与止揚』中国書籍出版社、2011年7月、229-241頁

⑤中谷伸生『大坂画壇はなぜ忘れられたのかー岡倉天心から東アジア美術史の構想へー』、醍醐書房、2010年3月31日、総616頁

⑥中谷伸生『東アジアにおける文化情報の発信と受容』（共著）関西大学アジア文化交流研究叢刊第4輯、雄松堂出版、2010年2月、419-438頁

⑦中谷伸生（共著）『亜洲語言文化交流研究』（共著）上海辞書出版社、2009年3月、総178頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中谷 伸生 (NAKATANI NOBUO)

関西大学・文学部・教授

研究者番号：90247891